

続支援B型事業所でも身近に『働く』ということを感じられる環境です。常にニーズに合った支援を模索することを怠らず、就労移行支援事業所・就労継続支援B型事業所ともに皆さんに選んでいただける事業所を目指して職員一同努力してまいります。どうぞこれからもご指導・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い致します。



いろいろな「働く」を見つける

ワークスいけじま
管理者 十川 知巳

ワークスいけじまに赴任してこの春で4年目を迎えました。

昨年度は2名の新しい利用者をお迎えしましたが4名の利用者が退所され、今年度は定員20名に対して16名の利用者でスタートしています。様々な理由により退所された4名の利用者の中で1名の方は就職という理由でした。

今までワークスいけじまは長年就労してこられ、リタイアされた利用者を受け入れてきました。しかし昨年度は離職後、再就職をしたいが体力的に不安のある方、就職活動中のつなぎの場として利用を希望される方が新たに利用されています。

平均年齢(50.5歳)の高いワークスいけじまで就職する方がいるのは非常に稀です。現在も1名の方が再就職をめざして利用されています。一度は就職をし、様々な理由で離職された方が多いワークスいけじまだからこそ働く意識の高さがあり、その中で一緒に働くことによって働く意識を持ち、励まされ再就職につながったのではないかと考えています。

今後は、再就職を目指す方が体力維持とモチベーションを上げるために利用されることは、今利用されている利用者の刺激にもなり気持ちを若返らせ活気のある施設になるのではないかと考えています。

ワークスいけじまでは随時利用者を募集しておりますので見学・相談等お待ちしております。

最後にワークスいけじまでは、この春1名の新人職員を迎え、気持ちも新たにスタートしています。職員一同、利用者様にとってより良い施設を目指し、そして利用者様がいつまで働くことのできる施設として

努力してまいりますので今後共よろしく願いいたします。



支援の質にこだわる一年に

メープル
管理者 石橋 孝治

メープルに配属され、2年目に入りました。昨年度は初めての管理者で慣れない中、労を惜しまないメープルの職員や事業所を飛び越えいつもサポートしてくれる港エリアの職員集団に支えていただき、なんとか頑張れた一年だったと感謝をしております。

今年度、メープルでは新人の女性職員を一名加える事が出来ました。正職員が男性ばかりで、昨年度はご利用者の方を始め、保護者の皆様にもご不便をおかけしましたが、新年度を迎え、より充実した職員体制でスタートをきる事が出来ました。

おかげさまで、昨年6月に開始した“ショートステイ”もゆっくりではありますが、形になってきつつあります。会員の皆様を始め、地域の事業として、なくてはならないサービスになる様に、さらなる充実に向け職員一同努力していきたいと思っております。また、“グループホーム”の事業におきましても定員を満たし、経営的にも少しずつ安定してきつつあるのではないかと感じています。

しかしながら一方で、メープルの“グループホーム”は地域のマンションや一戸建てを借りているところが殆どで、開所当初からの建物もあり、老朽化が進んでいるところが出てきています。利用する方の支援区分によって設置が義務づけられるスプリンクラーの問題なども併せて、今後の課題ではあります。さらには、港区は地震が起きた際には津波の危険性の高い区であります。生活の場である“グループホーム”は特にいざという時の備えを考えなければならず、課題は山積みで身を引き締めて取り組まなければいけないと思っております。

昨年度、厚生労働省は“グループホーム”は軽度の方から重度の方が利用するものに位置付けていくといった方向性を示してきました。

メープルの利用者の中には“一人暮らしをしたい”

